

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年12月1日 NO.71 (271)



1年Uくん「モンタ博士！カマキリがたまごをうみました。」

モンタ博士「ほほー。それはすごい。たまごを見つけたことは何度もあるけど、飼育箱の中なかにうんだというのは初めてだよ。みんなみなでくわしく観察かんさつしようね。」

1年生 「モンタ博士！カマキリのたまごってちょっとかわっていますね。」

1年生 「『スポンジ』みたいになっているけど、どうしてなのかな。」

モンタ博士「それはいいことに気がついたね。これからは寒さむくなるけど、この『スポンジ』みたいな中なかにたまごがあると、きっと寒さむくないんだよ。」

1年生 「ふーん。そうなんだ。それから、どうして『うすちや色いろ』しているの。」

モンタ博士「またいいことに気がついたね。寒さむくなってきて、緑色の葉みどりいろっぱなどがか
きたでしょ。それと同じような色のほうが自立めだたなくて、見つけられにくか
らなんじゃないかな。」

1年生 「ふーん。そうなんだ。この中なかにたまごがいくつくらい入はいっているのかな。」

1年生 「ぼく知しってるよ。100個から200個くらいあるんだ。」

1年生 「ふーん。そうなんだ。ところで、このまま教室きょうしつにおいといたらどうなるかな。」

1年生 「教室きょうしつはあったかいから、赤あかちゃんがうまれてくるかもね。」

1年生 「赤あかちゃんがうまれてきたらうれしいね。」

1年生 「でも、これから冬ふゆになっていくのに、赤あかちゃんカマキリがうまれてきて

エサはどうなるのさ。それから寒くて生きていけないんじゃないかな。」

1年生 「カマキリって、生きている小さな虫とか食べるんでしょう。」

1年生 「寒くなると小さな虫はいなくなるよ。エサがなくては生きていけないよ。」

1年生 「このまま教室に置いとくよりも、廊下に置いたほうがいいんだ。」

1年生 「そうだね。国立七小のみんなが見えるように廊下において観察しよう。」

1年生 「そうだ。みんなで観察しよう。」

1年生 「ところで、いつになったらカマキリの赤ちゃんはうまれてくるんだろうね。」

1年生 「春になりあたたかくなって、小さな虫たちが動き始めてからじゃないかな。」

1年生 「春といってもいつなんだろう。4月かな5月かな。」

1年生 「ふーむ。いつなのかな。わかんないなあ。」

モンタ博士 「そうだ。それでは、みんなで『カマキリの赤ちゃんいつうまれるクイズ』をやってみようか。」

1年生 「え？『カマキリの赤ちゃんいつうまれるクイズ』？」

モンタ博士 「そうだよ。クイズだよ。何月何日にカマキリの赤ちゃんがうまれてくるかをみんなで当てるのさ。」

1年生 「うわあー。おもしろそうですね。」

1年生 「ぴったり当てたらすごいですね。」

モンタ博士 「1年1組の前にクイズに答えるための紙を用意したから、みんなで当てっこしよう。ただし、一人一枚だけだよ。名前もちゃんと書いてくださいね。」

1年生 「よーし。ぴったり当てるぞ。」

1年生 「何だかわくわくドキドキしてきましたね。」

モンタ博士 「カマキリの赤ちゃんがいつ出てくるか。みんなでよーく観察してください。」

カマキリのたまごの秘密

カマキリの卵のことを正しくは卵鞘とか卵囊と言います。これからの冬枯れの季節にはとても見つけやすくなります。寒くなり生き物の姿があまり見かけられない時期でも、それなりに自然観察の面白さを味わう事はできるものです。生き物達が生ある姿を潜めている様子や、かつて生き物が生活していた姿を留めているものなども冬の観察の面白さだと思います。

昆虫の越冬は、種類によって卵であったり、さなぎとか成虫とか様々です。カマキリの仲間は関東地方では10月から11月ごろに産卵し、翌年の4月から5月頃に幼虫が孵化します。メスの栄養状態や気象条件などに産卵は影響されて産む回数や大きさなどはいろいろだそうです。卵を産む場所は、オオカマキリは枯れた植物の茎、ハラビロカマキリは木の幹や枝などに多く、コカマキリは建物の壁などのようです。なお、日本には10種類程のカマキリがいます。『カマキリのすべて』という本は、日本で一番詳しく書かれているカマキリの本です。校長室にありますので、見たい人は借りに来てください。